

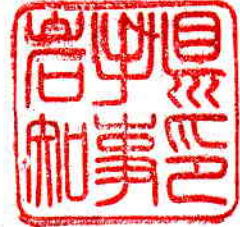
政 推 第 40 号

平成 24 年 5 月 22 日

三陸の海を放射能から守る岩手の会  
岩手有機農業研究会  
イーハトーブ雫石を守る会世話人会  
無限洞

様

岩手県知事 達増 拓也



国際リニアコライダーに関する質問について (回答)

平成 24 年 4 月 25 日付けで提出のありました「本県に高レベル放射性物質を持ち込まないこと・また本県を高レベル放射性廃棄物の最終処分場にしないための質問書」について、別紙のとおり回答いたします。

担当 政策地域部政策推進室

特命課長 細越 (ほそごえ)

電話 019-629-5217

E-mail t-hosogoe@pref.iwate.jp

(別紙)

	質問事項	回答
1	超伝導加速器による未臨界炉 (ADSR) とは具体的にどのような研究ですか。	<p>原子炉の放射性廃棄物は、そのままでは数万年から数十万年の間、放射能を出し続けます。</p> <p>ADSR ( Accelerator Driven Subcritical Reactor : <small>かそくきくどうみりんかいろ</small> 加速器駆動未臨界炉) は、その期間を百年から数百年と、1/100 程度に縮めるための研究を行う原子炉の一種です。</p> <p>技術的には、中性子を廃棄物に吸収させて元素変換を行います。その中性子の発生を加速器を用いて行うものを加速器駆動型と言い、加速器で加速した陽子線をターゲットに照射して核破碎反応を起こし、それによって生成された中性子を臨界量に達しない核燃料を装荷した原子炉に照射することにより核分裂反応を起こし、エネルギーを得ます。</p> <p>中性子発生用に用いる部分の加速器技術という観点では、ILC 計画や他の加速器研究と共通の土台を有しますが、ILC が宇宙・素粒子の研究であるのに対し、ADSR は原子炉の廃棄物の放射能半減期の短縮が目的であり、研究機関や研究分野は異なります。</p>
2	放射性廃棄物処理研究とは具体的に何をどのように研究するのですか。	ADSR は、長寿命放射線核種を安定核種又は短寿命核種に核変換することを目的に研究が進められており、それを指して「放射性廃棄物処理研究」と記述したものです。
3	・超伝導加速器による未臨界炉 (ADSR)、・放射性廃棄物処理研究、この2つの研究項目はいつ、どのような意図・経緯で計画に組み込まれたのですか。	<p>「TOHOKU 国際科学技術研究特区」構想の中で加速器活用の可能性のある研究分野の一つとして記述したものです。</p> <p>二つの研究は、本県が誘致を進めている ILC による素粒子物理研究とは関係がなく、研究施設の誘致も目指しているものではありません。</p>

4	<p>ILC 建設後運用は 20 年と記載されています。この運用期間が終了した場合、その地下空洞の活用計画はどうなっていますか。</p>	<p>ILC 運用終了後の地下空洞の活用計画は、現時点では未定とされています。</p>
5	<p>ILC へ放射性廃棄物を持ち込まないこと。ILC 運用終了後地下跡地やさらに深部を最終処分場に転用しないこと。この 2 点について国・事業主体と文書確約をするつもりはありませんか。「ない」場合はその理由をお答えください。</p>	<p>核廃棄物の最終処分場に転用する考えはありません。</p> <p>現時点では ILC 計画の事業主体が未定ですが、「文書確約」等についても、例えば「立地協定」などを結ぶ際には、要望の趣旨が十分反映されるよう検討したいと考えています。</p>